「日々の理科」（第 1130 号） 2017（H29）,-8,10

「北極圏旅行記 2017 夏（16）」

お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

～7 / 29　ロフォーテンの宝石・レイネ村～

フェリーが到着したモスケネス港から、レイネまでは、車で 15 分ほどである。レイネ（Reine）は、「ロフォーテンの宝石」ともいわれる美しい入江で、今回の旅行で、一番楽しみにしていた場所である。

レイネの道は混んでいた。さすがは人気の観光地である。レイネはもともとは、ロフォーテンのはずれの、小さな漁村であった。このあたりの名産である、干し魚を主産物としていた。しかし、フィヨルドの入江と背後の岩峰、それに海岸線に並ぶ小さなボートハウス群の組み合わせの美しさ有名になり、一躍、ロフォーテンのトップスターになってしまった。

駐車場はキャンピングカーや観光バスで一杯だったので、何とか路肩に車を寄せて、一番景色の良い場所で写真を撮ることができた。

これが、渡航前に夢に描いていた風景だ。旅先でのこういう風景との出会いは、案外あっけなく終わってしまうものだが、この時はちがった。わざわざこの風景の撮影の為に持参した、超広角レンズ付きの一眼レフを出動させ、実に 100 回以上シャッターを切った。

入江の右側（レイネ村側）は混んでいたが、反対側は比較的すいていた。ちょうど良い駐車スペースもあったので、ここではゆっくり撮影することができた。私のほかにも、ドイツ人、ポーランド人、中国人が撮影していて、「国際的な人気ぶり」がよくわかる。私は夕暮れ時に、もう一度撮影したいと思った。しかし「夕暮れ」は午後 11 時ごろなので、一旦宿泊地のロッジに行くことにした。（２ページ目に拡大写真あり）